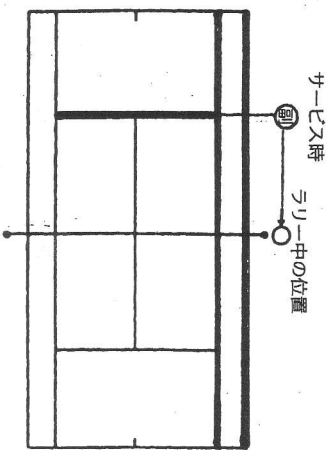


団体戦注意事項

太線の部分が副審の受け持つところ です。



- 1、引率教諭 (監督) について
 - ・引率教諭 (監督) 及び選手は、日程表の指定時刻より早めに会場に集合し、引率教諭 (監督) が本部に出席を屈けてください。尚、集合場所は、テニスコートの外とし、引率教諭 (監督) と一緒に入場してください。
 - ・引率教諭の付き添いがない場合は、出場できません。引率教諭は、受付から試合終了までチームの選手の監督・指導にあたってください。

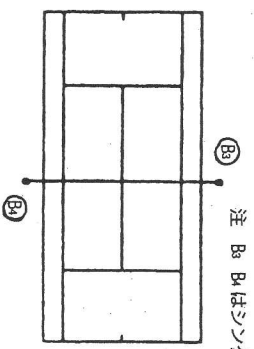
- 2、試合に際しての注意
 - ・試合前のウォームアップは、サービス4本とします。自分の試合が近づいたら各自工夫して準備運動をすること。コート外ではボールを使った練習はできません。
 - ・審判は主審1名、副審1名とし、対戦校から出すこと。原則としてドロ番号の早いチームが奇数ゲームの (D1, S8, S1) の主審を受け持つこととする。
 - ・試合着はテニスウェアとする。Tシャツ、長ソズ、長ズボンでは、出場できません。(ウェア・用具についての規定をよく読んでください)
 - ・テニスウェアの下に着るアンダーウェアは、OKです。またユニフォームのない生徒は、学校のジャージでの出場を許可します。

- 3、試合について
 - ・ダブルスは登録した10人の中でどの2人で組んでもよい。試合順は D2, D1, S3, S2, S1 で行い、学内の実力順に並べる必要はない。対戦校によりオーダーを組みなおすことができる。
 - ・本部からオーダー表用紙を受け取り、あらかじめ記入しておき、指示があったら直ちに本部に提出すること。
 - ・試合は、1セットマッチとする。6-6の場合は12ポイントタイブレーク (7ポイント取ったら勝ち) を行う。初回戦は勝負がついた後でも試合を行うが、他の試合は勝敗決定後打ち切る。

- ・ベンチコーチは、各コート1名とし、引率教諭 (監督) は必ず入ってください。
- ・(2面展開の場合1面は、引率教諭 (監督)、もう1面は、登録してある選手と選手との間の拍手「テニスショット」までは認めるが、助言、指導はコートチェンジの時のみで、規定の時間内に限る。相手を傷つけるような発言、あるいはベンチに反する行為をしてはならない。
- ・選手はベンチコーチ以外の者からいかなる助言や指導も受けてはならない。
- ・何か問題が起こった場合には、顧問同士で話をする。
- ・けいれんその他の自然的体力消耗による休憩は認めない。応急処置が必要な場合はレフェリーの許可を受けること。勝手がコートを離れることはできない。
- ・ボールの判定については審判に従うこと。カウント、ルールの解釈についての異議、質問は申し出てもよいが、選手、ベンチコーチに限る。
- ・主審は試合終了後、試合ごとに結果を本部に報告すること。
- ・ボールは、審判台の下に置いてあるボールを使用すること。

- 4、主審・副審について
 - ・主審は図の細線の部分について判定する。副審は図の太線の部分についてのみ判定する。
 - ・アウト (フオルト) の場合は、はっきりと選手と観客にわかるように大声でコールする。ジュエスチャーだけではいけない。
 - ・副審はサービスの判定が終わったらポストの位置まで戻り、ラリー中のボールを判定する。
 - ・副審によるオーバールールはありません。自分の受け持ちの線をきちんと判定すること。

- 5、ボールパーソンについて
 - ・各校出来るだけ数名用意してください。ボールパーソンはテニスシューズを持参すること。また選手と異なる服装 (学校の体育着など) が望ましい。
 - ・ボールパーソンは1コート シングルスするとき4名、ダブルスするとき2名とし、図の位置につくこと。後ろの者はフェンスきわまで下がっていること。
 - ・ボールパーソンは審判の判定 (アウト、イン) について、たとえ審判から聞かれても答えてはならない。審判もボールパーソンに聞くようなことがあってはならない。
 - ・ボールパーソンは応援することもできない。



注 B1 B4はシングルスときだけとする。
ネット近くの者はクラウチング (しゃがむ) がのぞましい。

- 6、応援について
 - ・サーバーが位置につこうとしたら、静かにグレイに注目すること。
 - ・インプレイ中は音や声を出さないように注意すること。
 - ・エースショットについては、拍手や声援をして選手を盛り立てるようにしましょう。
 - ・相手選手や審判について、とやかく言うこと (野次) は慎むこと。
 - ・コート外からのアドバイスは禁止である。
 - ・試合開始と終わりの挨拶のときは起立し、拍手でたたえましょう。